

事故仮報告

Member L山本章(EI-II) 二俣勇司(LI-II) 細野典明(AI-I)

当事者 清川雅夫(SI-I) (学部-四年-部歴)

発現場所 雁竹立岩 斜上バンド(信太バンド)を2.4~5m登った所

発生日時 50年10月9日(木) AM10:00-10:10頃

発生状況 雁竹につくと1年目の細野。清川は最初に斜上バンドに登るべく先に、清川TOPで登りはじめた。他の2人は少し遅れて、斜上バンド下のバンドに登ろうとしたがザイルが重なるので、清川が抜けるまで待つ事にし、ついでに清川にアドバイスを送っていた。2.5m位登り、向題の所まで来た。二ニまでくればと目を離した時に大きな岩と共に落下。落ちた時は誰も目撃できなかった。

被害状況 清川は頭・胸を強く打ち重傷。現在、^{ほつれと}脳の損傷による意識不明のまま信太病院に入院中
体の方は回復しつつあるか

発生原因 前から少し浮いていた岩に、必要以上に力を加えたため岩がはがれた。

以上が概算であるが、僕らが二俣からしていかねばならぬ事は、どうしたら米沢の清川を出不すと云ふかと言う事である。彼が1年目であるという事を重要視した。他に起こった小さな事故等を合わせて考える。僕らは部の活動を根本から考えなおす必要があると思う。具体的

1. 10月9日に合同登山を行ない、具体的方法論を行ない同時に評員の力の把握を行なう。
2. 登山に限らず新人指導全体を考えなおす。新入に何を教え、それをどの様に運営していくか。その上で部の山行はどうあるべきか。
3. 11月8日にSACデミを行ない、全部員への浸透をはかり。
4. 会のあり方に向題はなかったか。 米沢の他

以上の事を考え、詳しい報告等は11月中旬頃に出していく予定です。

後、清川君に出来る事として、病院での付添、経済的援助等が考えられ、^{知して}それらは、立案に行なっていかねばならぬと思っております。

The first part of the document discusses the importance of maintaining accurate records of all transactions. It emphasizes that every entry should be supported by a valid receipt or invoice. This ensures transparency and allows for easy auditing of the accounts.

In the second section, the author details the various methods used to collect and analyze data. This includes both primary and secondary research techniques. The primary research involved direct observation and interviews with key stakeholders, while secondary research focused on reviewing existing literature and industry reports.

The third section presents the findings of the study. It highlights several key trends and patterns observed in the data. For example, there was a significant increase in the use of digital services over the past few years, which has led to a shift in consumer behavior. Additionally, the study found that customer loyalty programs are becoming increasingly important for businesses looking to retain their market share.

Finally, the document concludes with a series of recommendations for future research and practical applications. It suggests that further studies should be conducted to explore the long-term effects of digitalization on the economy. On a practical level, businesses are advised to invest in digital marketing strategies and to regularly update their customer loyalty programs to stay competitive in the market.

現場検証 10/11 吉田 山本 = 保 細野

概要

- まず川原から全体を眺めてみる。残置したラニゲピレーは列の2つ。又例の箇所は落石して130かほどより認められる。
- 登攀準備をして130間に 清川と入ルメットの落石位置を聞く。
- 吉田(T) - 山本乙 斜上バンド終了東までサレをfixする。
 - 吉田は清川のセットしたラニゲピレー I, II 及び落石のあたりに地塁の状態を片方から末端を終了する本に結び下へおける。
 - 山本はもう1本のサレを体につけ、先に張るサレ区 I, II, III で固定する。そして体につけたもう1本のサレを事故当時のサレの位置に状態にして再現する。
 - 二保はfixを便して II の地塁へ、山本は III の地塁で待機し、サレの先に11mを付け落として終了。2回行方II サレ回収。
- 2日後 清川の落石途中の様子を見るため、B face サレの1/2下まで登る。

個々にして

1. ピレー

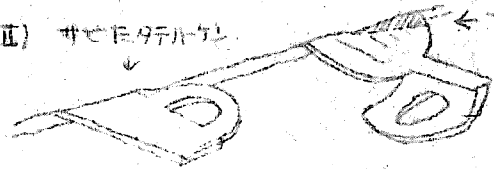
I... しっかりしたボルトに 1m40cm 寸上の編組のローリングをかけ D型の鉄セサをかけた。2重ロビ

II... 少し上へ傾斜した所に新しい横のローリングを110cmに打ち込んであったものにIと同じ様に2重のローリングをかけた。D型の鉄セサがなかった。ローリングはロックで片側から5cm程接していた。

(I) 1.5m 50cm
(II) 1.5m



(II) サセに付けた。 ← 下部分



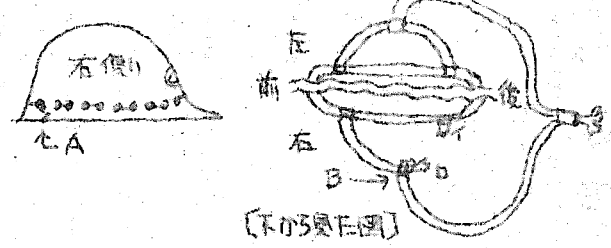
※ローリングセサ共ショックに招き寄せた。

2. サレ

傷が目立つものは表面が剥けている程度。内面はどうか判断しにくい位。切り口は、清川に近いうちから5m位以内と比較的良い状態がある。

3. メット

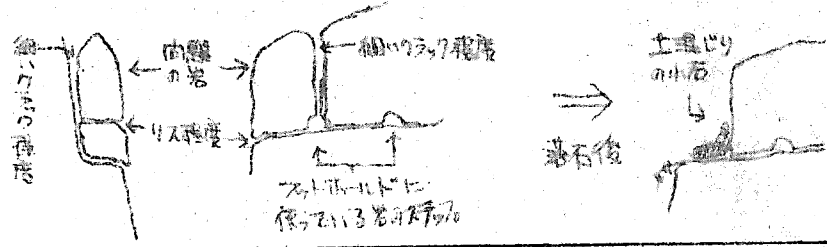
この地塁はほぼ真下。壁から2m位離れた場所に落ちた。外側の傷はAのみ。内側の端が割れてつながらなかった。内側について 全体的にセサは老朽化している。右側の入口が少し歪んでいる。これは次の理由にあり、歪みはセサがぶつかった可能性がある。(1) 入口のセサの色が少し異なる。(2) Bの部分に結んでいる。もしそうであれば、メットのA付近で岩にぶつければ(特に落石予想の箇所で) 異なる落ち方をすれば簡単にメットは前へはずれてしまう。尚メットは清川の前から使われていた。



[下の図は図]

4. ほかの岩について

前からしっかりした岩が10mほど傾斜している。高さ1m50cm位。1かかえ以上の岩であった。ほかの石は、跡付土まじりの小石のみで、付着の土まじり小石がつかっていた。



図は非常に簡単であり、正確ではないが、たいへん人な感じであった。

土着下り得

・112マーを著とした経路

[A~B] 真下へ [B付近] の岩に当り [B-E] 内側運動 E 当りまで自動で振れた。

△2回試みEからどちらかB付近で壁に当りE付近で岩に当り、下。

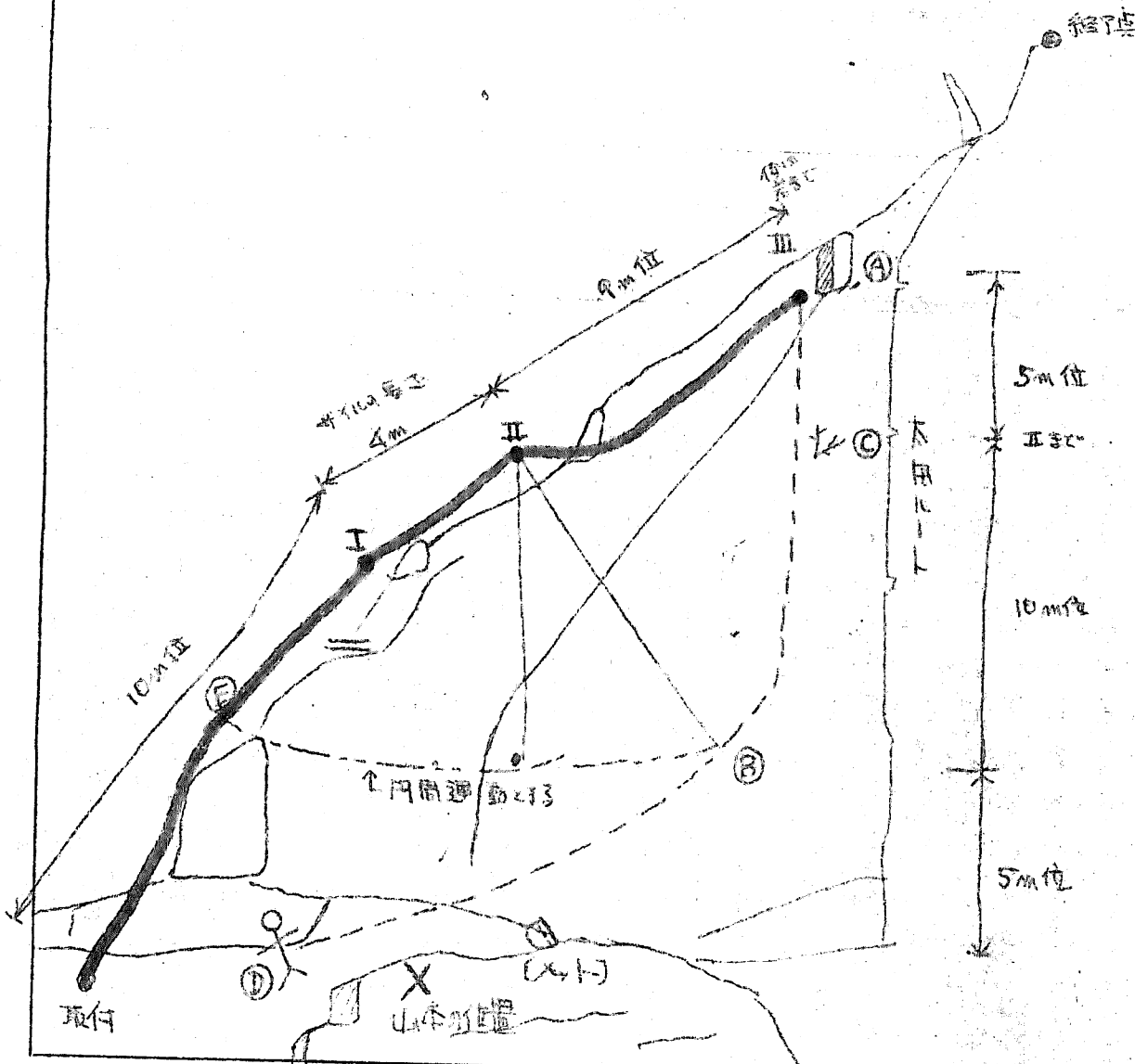
- ・体重をかけた時の岩が落ちた。→外側の体は壁から離れた。
- ・その部分は壁から少し出ていた。
- ・4リ下は傾斜が強く、出、張りをほとんどない。特にB付近が下は、傾斜が強い。
- ・トナリは B~E と動いたが、晴川は B付近から下へ落ちていた。→内側障害物なし。
- ・細野はカイルを取った。

→晴川はAの着たところのエリアから、B付近までは壁から離れて下り、B付近よりカイルに引張られ、B付近の壁に激突し、加減のつた 70kg 位の体重が、カイルのつり付近で振られたと見られる。

Xはトナリの方としては下へ落ちながら壁に当たった。ヘルメットのA付近が先にぶつかり、すぐにはずれ、その後大きなショックが頭に当たったと見られる。Xは動いた位置まで飛んだと見られる。

6. B face のルートと覚えておけ。

この付近にあるエリアは小指位の幅のつり付で下へ落ちた跡があり、下へ少し傾いてEから下へ落ちた跡の幅が約1mあり、壁に当たった事なし。



清川の登攀履歴

5月18日 SAC合同岩トシ

5月25日 鷹所 L吉田(4) 二保 網本 餅田 山本(2) 清川 矢田 下田 片山 細野(1)

斜上バード T 網本 - 清川

6月15日 猿岩 L 福島 古橋 餅田 井上(2) 下田 片山 権巻 清川(1)

1. カンテールト T 餅田 - 下田 - 清川

2. トーブルト T 吉田 - 清川

3. 左下ニールト T 吉田 - 清川

7月 奥山 側心 越高 継走 L 須貝(3) 二保(2) 片山 細野 清川(4)

2. 剣南壁 A1 T 須貝 - 片山 - 清川

1. 剣六峰 C1 ~~カ~~ 剣 須貝 T 二保 - 清川

8月14日 鷹所 合同岩トシ (SIMAC) L 吉田 合宿参加者

1. コクタクトルト T 餅田 - 清川

8月岩場便着合組

1. A face (11.7.16) T 吉田 - 片山 - 清川

2.

3. 片岩コクタクト A face (6.17.17) T 須貝 清川 下田

9月22日 鷹所 L 網本の清川

モモノ木 - 逆V - 土外トラバース下降 - 四角 - 山寝会 連続
(逆Vの餅田 T 清川 後 T 網本)

9月26日 鷹所 山下 右山の清川 片山 細野(1)

1. モモノ木 (T 右山) - 土外トラバース (T 清川) - 逆V (T 右山) - 土外トラバース下降 (T 清川) - 四角 (T 右山)

2. コクタクト (T 清川) - 山寝会 (T 右山)

9月30日 鷹所 L 右山(2) 清川

モモノ木 (T 右山) - 土外トラバース (T 右山) - 逆V (T 右山) - 土外トラバース下降 (T 清川) - 四角 (T 右山) - 山寝会 (T 右山)